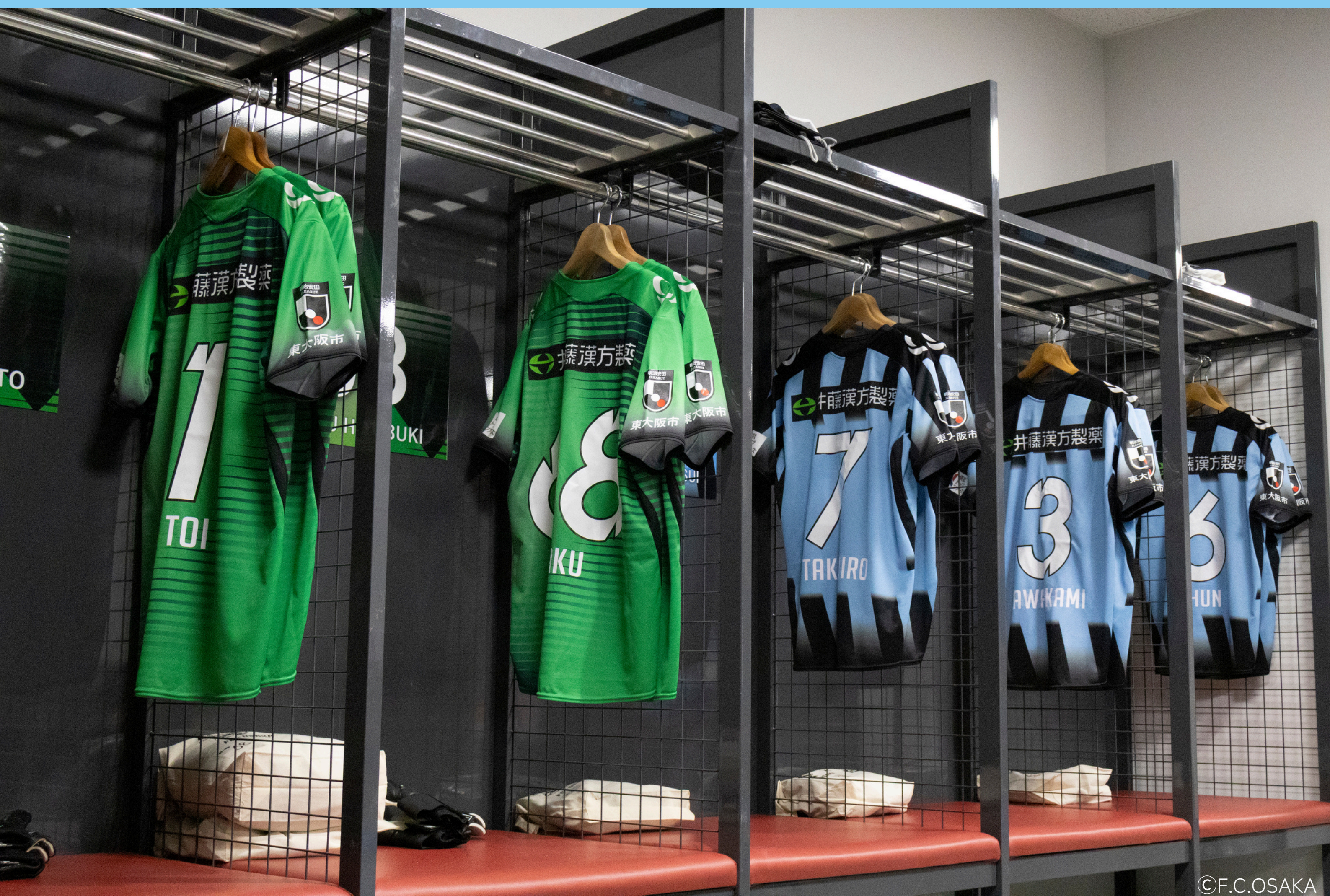




©F.C.OSAKA

FC大阪 × Local Bridge 学生局 デジタルパンフレット



©F.C.OSAKA

試合がもっと楽しみになる！ プレイヤー&チーム紹介

注目選手紹介

©F.C.OSAKA



GK1 山本透衣選手

一番自分がうまい、絶対自分なら大丈夫という自信をもって試合に挑んでいます！

[インタビュー動画はこちらから！](#)

©F.C.OSAKA



FW 9 島田拓海選手

ゴールをとり続けるので、アツい声援をよろしくお願いします！

[インタビュー動画はこちらから！](#)

©F.C.OSAKA



MF24 佐藤諒選手

試合中、試合の雰囲気、歓声をよく聴き、感じるようにしています！

[インタビュー動画はこちらから！](#)

FC大阪		福島ユナイテッドFC
脱炭素	特色ある チームの取り組み	農業部
勝負強さ、守備	ここに注目！	攻撃・得点力
第10節群馬戦では、後半ATに2得点逆転勝利。粘り強い守備からの攻撃に注目！		今季、第6節を除いて全試合得点(5/7現在)。圧倒的攻撃力に注目！
1位	暫定順位 (6/16時点)	8位

東日本大震災の原発事故による風評被害払拭活動として福島県産品の魅（味）力をPRするため、福島県内の農家の方々と協力して選手・スタッフで農産物の生育を行っています！



なぜ脱炭素に取り組むのか

気候変動が引き起こしている
平均気温の上昇により・・・

練習環境の悪化

今まで通りの試合
開催が困難に

「脱炭素」が地球温暖化を防ぐキーワード。
詳しくはページの下をチェック！

少しでもよくしたい！

今できる脱炭素アクションをとっていく
「ACT NOW」プロジェクトをスタート！

ACT NOW
FC★OSAKA "NET 0" PROJECT

脱炭素に取り組んだ未来

©F.C.OSAKA



1.地球温暖化の抑制

脱炭素アクションにより
CO2排出量が少なくなり、
地球温暖化を防ぐことができます。
さらに、気温上昇が抑えられ、
安全で楽しくサッカー観戦
ができます！

2.健康リスクの軽減

気温上昇による熱中症の
リスク増大、感染症の拡大、
異常気象による災害被害を防ぐ
ことができます。なので、
私たちの健康にやさしい地球に
住むことができます。

3.経済と技術の変革

電気自動車や省エネ建築
など、グリーン産業が成長
することで、新たな雇用と
経済の活性化につながり、
イノベーションが加速します。

わたし 私たちにできること

マイバッグを持ち歩こう！

はなぞの じょうまんせきぶん
花園ラグビー場満席分の
きゃく まん にん
お客さん（2万6000人）が
ぜんいん ぶくろ もら
全員レジ袋をもらうと
どうなる？

こんかい まい にさんかたんそ はいしゅつ ぶくろ もら
今回は、1枚につき30gの二酸化炭素（CO₂）が排出されるゴミ袋を貰います。
とすると、ぜんいん ぶくろ もら
全員が1枚ずつ貰うので、 $30\text{g} \times 26,000 = 780\text{kg}$ のCO₂が排出されます。

780kgのCO₂って
どれくらい...？

ふつうしゃ やく
普通車で約4,000km
そうこう
走行できるくらい

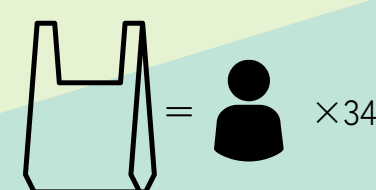
いっぱんてき ねんび くるま
一般的な燃費の車で、4,000kmを
そうこう がいとう
走行することに該当します。

にっぽん とうざい なが やく
日本の東西の長さが約3,000kmだから、
にっぽん おうだん
日本を横断できちゃう...！？

にんぶん にち はいしゅつりょう
34人分の1日のCO₂排出量

にんぶん はいしゅつりょう そうとう
34人分のCO₂の排出量に相当します。

かいじょう ぜんいん まい ぶくろ
会場の全員がたった1枚のレジ袋を
せつやく にんぶん
節約するだけで、34人分のCO₂を
さくげん
削減できる...!?



マイ食器を持ち歩こう！

使い捨て食器だった場合

234.8kg

イベント主催者が
リユース食器を用意した場合

155.4kg

44%のCO₂削減

来場者が
マイ食器を持参した場合

14.8kg

94%のCO₂削減

Co₂の排出量

みなさんは、マイ食器を持っていますか？例えば、マイボトル、マイカトラリーなど。マイ食器の持参は、ペットボトルやプラスチック製のスプーン、割り箸などを使用する必要がないため、環境に良いことはもちろん、お財布的にも良いアクションです！みんなでマイ食器持参ブームを広げていきましょう！

例：アースデイ東京2011の場合（17,555食分／お皿：10,029個、カップ：7,526個）

引用：ごみゼロナビゲーション<https://www.gomizero.org/mydish_mybottle/susume.html>

わたし
私たちにできること②

ぶんべつ
ごみの分別

まいにちなにげだ
毎日何気なく出しているごみ。
「なんで分別しなきゃいけないの？」
おも
って思ったこと、ありませんか？分別
りゆう
する理由をみてみましょう！

りゆう
理由 1

かぎ しげん
限りある資源をリサイクルして、
ちきゅう まも だ なか
地球を守るため。出したごみの中には、
つか
使えるものがたくさん眠っています。
たと
例えば、ペットボトルは新しい服に
う か
生まれ変わったりしますよね。
しげん たいせつ つか
こうして資源を大切に使うことが、
ちきゅう しげん まも
地球の資源を守ること、
かんきょう ぼご つな
つまり環境保護に繋がるんです！

おおさか と くみ いちれい
FC大阪の取り組み一例

ねんかいまくせん
2024年開幕戦においてゴミ全体に対して
ぶんべつ
リサイクル物を分別できていた割合を

23%→88%

じょうしょう
まで上昇！！

・エコステーションを作成するワークショップの実施
じっし

りゆう
理由 2

しやり
ごみ処理にかかるコストを減らして、
よ
より良い社会につなげるためです。
わたし
私たちがきちんと分別することで
おさ
そのコストを抑えられ、浮いたお金を、
ちきゅうおんだん か たいさく
例えば地球温暖化対策とか、もっとソー
シャルグッドなことに使えるようになります！
つか

はいしょくよう あぶら
廃食用油のリサイクル

おおさか うえだ ゆし かぶしきがいしゃ れんけい
FC大阪は植田油脂株式会社と連携し、
ホームゲーム開催時に、家庭から出る使用
す てん あぶら かいしゅう おこな
済み天ぷら油の回収を行っています。回収
はいしょく ゆ
した廃食油はリサイクルされ、バスやトラ
ねんりょう さいりよう
ックの燃料として再利用しています。ま
た、この取り組みは、ファン・サポーター
かんしん も
にリサイクルへの関心を持ってもらうきっ
かけとなっています。

かいさいちゅう
サステナカップ2025開催中!!
2025.5/31(土) - 6/29(日)

くわ
詳しくはこちらをタップ！

サステナカップ2025 | THINK THE BALL PROJECT

はいしょくよう ゆ かいしゅう
廃食用油 回収

か ねつ けんびん ぶんり
加熱、検品、分離など

べつ
別のリサイクルルートへ

のこ
残りかす

ゆ
油脂

ちよぞう
タンク貯蔵

しゅつか ぎょう む
出荷業務

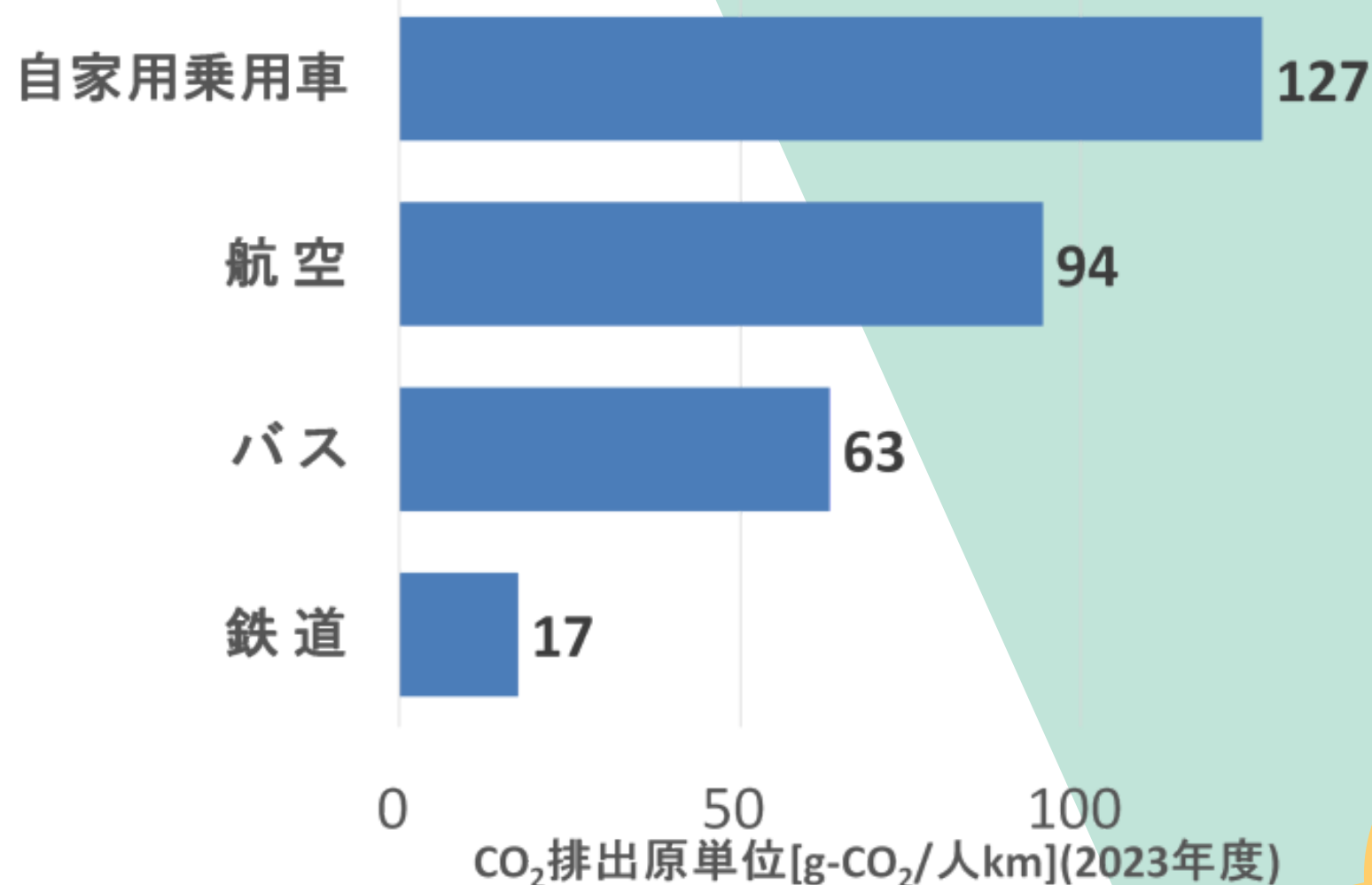
—あなたのサステナブルな活動が愛するクラブを強くする。—
かつどう あい

よせん
予選リーグでは、参加する60クラブで3つのリーグ(J1、J2、J3)に
わ 分かれて実施し、各クラブのファン・サポーターがクエストに参加して
じっし
総活動量(act)を競います。
そうかつどうりよう きそ

わたし
私たちにできること③

くるま でんしゃ つか
車よりも電車を使おう！

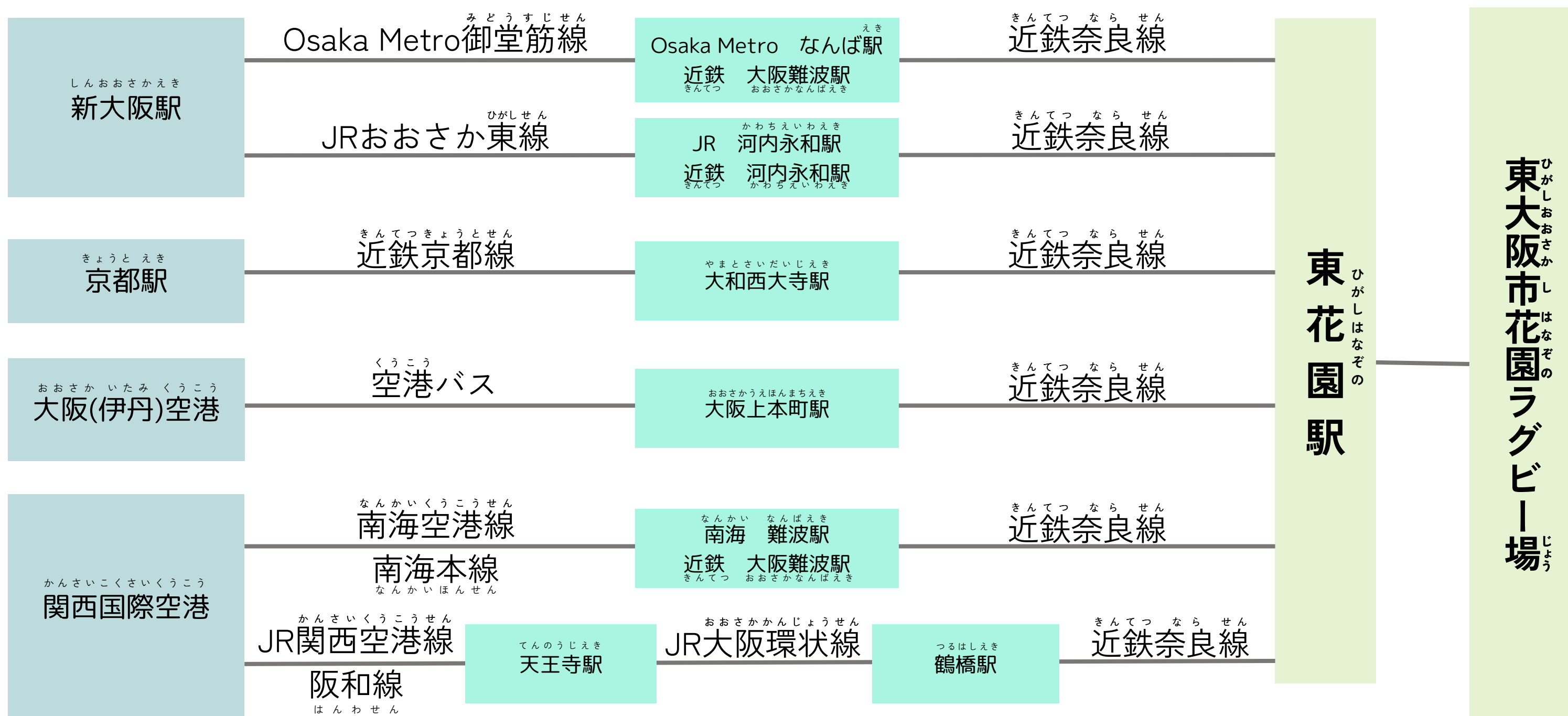
輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(旅客)



おな きより いどう でんしゃ くるま
同じ距離を移動するとき、電車は車の
やく ぶん はいしゅつ
約7分の1のCO₂しか排出しません！
はじ だつたんそ と くみ
すぐに始められる脱炭素の取り組みなので、
でんしゃ かつよう
ぜひ電車を活用してみてください！

引用：国土交通省ホームページ(https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html)

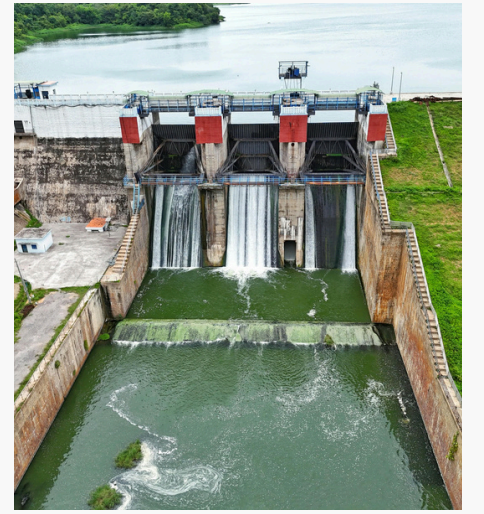
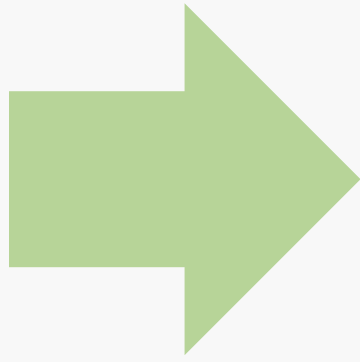
でんしゃ つか れい
電車を使ったアクセス例



再生可能エネルギーに注目！

再生可能エネルギーとは？

→ 太陽光や風力、水力など自然界で再生されるエネルギー源



私たちが普段使っている電気は
火力発電など、CO2を排出する
発電方法によって
つくられたものなんです！

再生可能エネルギーから
つくられた電力を使ってみよう

こちらのサイトもチェック！ → <https://minden.co.jp/>（みんな電力HP）

さいごに

普段、サッカースタジアムで配布しているパンフレットとは異なるコンテンツでしたがいかがでしたか？ゲーム観戦が楽しみ！チームや選手をより好きになった！だけではなく、脱炭素社会に向けてみなさんが行動するきっかけになることができているととても嬉しいです。これからも一緒に頑張っていきましょう！

Local Bridge 学生局

Local Bridge学生局は、
「地域もキャリアも、幸せにする」という
コンセプトを軸に活動している大学生団体。
大学生自身が様々な地域で継続して関わりを
持ち、より多くの人々が地域とのつながりを
深めていくことを目標としています。



Local Bridge